

## Maple letter (13)

### 国際剣道審判セミナー

冬が続いています。積もった雪が雨に溶け、ドロドロのぬかるみになり、それが凍りつき、町中が前代未聞のスケートリンクになってしまったかのようです。晴れると、スパークリング、光が氷や雪の中で踊っているわね、と、オタワの友達からメールがきました。そうなんだ、カナダの人たちは何てポジティブなんでしょう。こんな時でもくじけないのです。

こんな悪天候の中、ドリトル先生が重一い役目を果たす、カナダ剣道の行事の山場とも言える、北米ゾーン剣道審判セミナーが開催され、一家で巻き込まれていました。高段者の審判力の向上と共に、剣道世界選手権に向けて審判選出を目指すものでもあります。アジアゾーン、ヨーロッパゾーン、北米ゾーンと世界の三つの地域で国際審判セミナーが開かれます。日本から八段の経験豊かな先生3人が送られて来ます。ところが、今年は、3人の先生に加えて、日本から10人の若者の試合者が本部の担当責任者と共にくることになり、総勢14人の大所帯でモンリオールにやってきました。それにつれ、通常は40人程度の参加者が、140人に膨れ上がってしまったのです。

この行事を丁々発止でこなしなのが、ドリトル先生の愛娘、茜です。会場の契約、日本の本部とのやりとり、昼食の手配、宴会、参加者やゲストのホテルの予約、選手や先生方の送り迎え、当日の会場のボランティアの手配など全てが、肩にかかることになりました。その上、当日は、先生のご指名でセミナーの通訳、ドリトル先生の通訳と、手足がいくつあっても足りないかのように走り回る、不眠不休の1週間でした。

ミーティングや交流の機会などを考え、寒い中凍えながらレストランに行くより、ゆっくりできるよう、夕食に我が家にお呼びすることになりました。三人の先生方とアメリカの会長をミーティングを兼ね夕食に一度、もう一度は、先生を含め、日本からの14名の方々とアメリカの会長やハワイからの友人など16名が我が家にこられました。一人一人は優しくマナーの良い素敵な人たちなのですが、団体になるとマッチョになってしまう日本との久々の触れ合いでした。ドリトル先生は、先生方のお酌に忙しい女の子を見て呆気にとられていました。

「凄い。ローテーションを組んで、お酌にいくんだね。芸者修行かね。」

「偉い先生との触れ合いとか言ってるけど。」

若者の1人がシャンペンを注ぎ、女の子の1人に無理強いし始めました。

「一気に飲めよ。」

かなり酔いが回っていたこの子は困り果てていました。

「僕と一緒に飲みましょう。」

ドリトル先生は、彼女のグラスをとると一気のみです。感激したこの子は

「優しい！写真とって、ドリトル先生と」

「それなら、僕も、」

この若者も、ドリトル先生と写真を一枚。ドリトル先生方はもてもてでした。

ここでイケメンの若者が、

「あの一？質問ですが、こちらの男性ってドリトル先生のように皆優しいんですか？」

茜の一言、

「決して優しくありませんよ、皆。それなりのマナーで表現するから優しく見えるだけです。日本の男性には、他の国の人には無い思いやりや黙ってしてあげる、さりげない優しさがありますよ。素晴らしいですよ。」

「どっちが良いですかね。」

茜は微笑みながら、

「どっちも、どっちかな。半分、半分にすると理想的かな。」

始めてシャンペンをポーンとあけて大喜びする若者や、久々の日本食に飛びつく若者や滞在最後の夕べは、楽しく過ぎていきました。まあ、このために、買い物や立ち続けの料理の日々ではあったのですが、若者にはかけがえのない寛ぎの時だったようです。空港に向かう代表団を見送ったドリトル先生一家は、ドーッと疲れを感じ、回復にはやや時間がかかったのです。

それにつけても、花の蕾の待ち遠しい日々です。

、